

所属・資格 総合文化研究室・准教授

申請者氏名 小林 和歌子

研究課題		効果的リスニング活動の為の理論と実践・情緒因子（動機・自信）への影響を通して
報告の概要	研究目的 および 研究概要	リスニングはある研究者達によれば、4 技能のうち最も難易度の高い活動だと言われている（Rost,2002, Peterson, 1991）。現実的に教師が授業中にリスニングの活動をする際にどの様にすれば効果的なのであろうか。何故リスニング活動は授業中に展開するのが難しいのであろうか。初級者・中級者・上級者の間の聴解力の差、効果的なリスニングのレッスン、3つのリスニングの目的、リスニングの為の学習ストラテジーを学習者に教示することなど理論的に考察しながら実際の教室でアクションリサーチを実施し昨年度の結果と比較検討しながら、更にそれらの理論がどの程度正しいのか考察する。また、リスニング力が上がった際の動機・自信面の影響、スピーキング力への影響等も併せて考察したい。
	研究の結果	先ず、教室内でリスニング活動を何度か行い、アンケート調査を実施した際の結果について述べたい。第一にテキストの写真が、学生たちがリスニングの内容を理解するのに助けていることが分かった。第二にプレリスニング活動におけるスキーマ構築活動は何が聞こえてくるのか予想したり、問いにより簡単に答えたりすることを可能にしていた。第三に比較的難しいリスニング活動の際に学生たちはメンタル面をコントロールしていることが分かった。第四番目として、学生たちはリスニングの際に知らない単語の意味を推察することが苦手な傾向があることが分かった。第五番目として、佐藤（2010）が主張しているように、日本人学生は自分のリスニング能力を査定するときに低く見積もる傾向があり、自分のリスニング能力に対して謙遜し、批判的になる傾向があることが判明した。
	研究の考察・反省	数回のリスニング活動を実施した後に、アンケート調査を行ったために、これらの結果を一般化するにはかなり制限が付くのではないだろうかと危惧している。またリスニングの戦略や技術を教示するのみならず、4 技能全ての英語力を上げるためにできる限りの全ての英語教授法を実施することにより、教室内で行ったアクションリサーチを将来的にはもっと実践的なコミュニケーション能力を高めることを目的とした効果的な教授法と繋げることができるとのではないかと考察する。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。 第 2 回 JAAL in JACET 学術交流集会 Toward an Acquisition-rich Classroom from SLA Perspective – Basic Ten Principles- 2019 年 11 月 高千穂大学、東京	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	『カンボジア研究—その自然・文化・社会・政治・経済—』文眞堂 藁谷哲也編著（分担執筆 第 3 章外国語教育—過去・現在そして未来への課題）2019 年 9 月 『Structural Equation Modeling of Writing Proficiency Using Can-Do Questionnaires』 文眞堂 小林 和歌子著 2019 年 9 月	